



東京グリーン

Chartered 1973

〒135-0016

東京都江東区東陽 2-2-20

東京 YMCA 東陽町センター内



To Acknowledge the Duty that Accompanies Every Right

< 2024.4 >

BULLETIN

2023年7月～2024年6月

会長 樋口 順英
副会長 青木 方枝
書記 西澤 紘一
会計 柿沼 敬喜
監事 柿沼 敬喜
監査 西澤 紘一
担当主事 柳原みずき

国際会長 ウルリック・ラウリドセン 「輝かそう、あなたの光を」
アジア太平洋地域会長 利根川 恵子 「変革のための光となろう」
東日本区理事 山田 公平 「未来のために今、学びと気づきを！
未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」
関東東部部長 長尾 昌男 「親睦を糧に、クラブライフの充実」
クラブ会長 樋口 順英 「51年目からの新たな出発」

4月 イースター

つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。(使徒言行録 26 章 23 節) <復活の主との出会いから、福音伝道の先兵となって活躍したパウロの言葉です。福音がユダヤ人のみならず我々異邦人にもあまねく溢れていることを知りたいものです。>

2024年4月例会

日時：2024年4月17日(水) 18:30～20:30
場所：東京 YMCA 東陽町コミュニティーセンター
★進行：村杉メン、 受付：佐野メン、
開会点鐘 樋口 会長
ワイズソング・ワイズの信条 全 員
聖句・お祈り 西澤 メン
ゲスト、ビジター紹介 樋口 会長
卓話「夢ニ胡蝶トナル -昆虫採集への誘い」
千葉県少年自然の家 所長 佐藤 健 氏
各種報告 樋口 会長
YMCA 報告 柳原 主事
ハッピーバースデー 該当者なし
閉会点鐘 樋口 会長

【例会出席率】 在籍：15名 1月出席率9/13 69%

出席：3月 (メン9名、メネット0名) 計9名

【ニコニコ】 ¥6,000

<<<東京都環境賞受賞>>>

第89回 神田川船の会®

2024/6/8(土)開催

今回のルート：浅草橋出航➡神田川～日本橋川～隅田川～**小名木川**～隅田川～神田川➡浅草橋帰港

- ▲ **開催日** 2024年6月8日(土) 少雨決行
- ▲ **乗船便**
 - 午前便 2艘 (募集人員 65名) 出航：10:00
 - 午後便 2艘 (募集人員 65名) 出航：13:30
- ▲ **集合場所** 浅草橋・船宿「三浦屋」前の広場
* JR総武線/浅草橋駅東口 徒歩2分
- ▲ **参加費**
 - ◆大人 3,500円/名*消費税込み
 - ◆小・中学生 2,000円/名*消費税込み冊子なし
- ▲ **申込先** 東京YMCA 神田川船の会 事務局



←QRコード(左)からお申込みください。

(Eメールでも受付けます。)

kandagawa@tokyoymca.org▲ **申込締切** 2024年5月10日(金)*当日必着

◆2024年3月例会報告（樋口）

日時：2024年3月21日(木) 18:30～20:30

場所：東京 YMCA 東陽町コミュニティーセンター

出席者：青木、柿沼、佐野、西澤、西本夫妻、村杉、柳原、
樋口各メン（司会進行：柿沼メン、受付：村杉メン）

ゲスト：「にほんご学院」講師 藤井 美希様、同卒業生2名



▲「にほんご学院」のゲストを迎えて3月例会

- ・開会点鐘、つづいてワイズソング、ワイズの信条、聖句の後、食事会となりました。老舗弁当に、差し入れデザート「紅白最中」「小ざさ」は最高。
- ・食事会の後は、下記を行ないました。

- ① 卓話「異文化の国から来て・・・」、
（「にほんご学院」藤井講師と卒業生による）
- ② 「クラブ規定改訂」議決、
- ③ 各種報告

▲卓話報告：「異文化の国から来て・・・」

卓話者：「にほんご学院」講師 藤井 美希 様
同 卒業生 チャン クアン フィ 様（ベトナム）
ガオサン ビクラム 様（インド）

1. 「にほんご学院」の概要説明（藤井講師）

- ① 今年2月時点在籍97名、コースは2年、1.5年の数種類あり、
国別構成では、中国、台湾で50%以上、ベトナム13%、その他となっているが、コロナ後でベトナムが大幅減となっているのが特徴的。
- ② 教育現場での写真を交え、日常でより実践で使える会話教材、漢字の教え方などの紹介を受けた。20年前自分が日本語教師を目指していた時に比べ格段の進歩が見られ驚いた。

2. 卒業生2人の日本体験

- ① 「来日時の日本の印象と今とではどのように違っているか」、「母国と日本ではここが違う」、の2テーマにつき体験を語っていただいた。
- ② アルバイト先での差別等の体験があったが、これらを前向きにとらえ今後の日本での生活に役立ててほしいと思います。また、ここできた友人を大切にしていきたいものです。

▲ 審議事項「クラブ規定改訂」議決

クラブ年会費規定改訂（若年層の会費軽減）につき審議し、会則に則り議決結果、可決成立しました。

▲ 報告事項

1. 2025-2026 年度の東日本区理事・山下真（十勝）氏の承認が可決されました。
（2月9日に臨時東日本区役員会で承認、2月27日臨時代議員会投票結果可決）

▲ 例会の様子



【写真上：左から柳原メン、ビクラムさん、フィさん、藤井講師】



【写真上：左から藤井講師、ビクラムさん、フィさん】



【写真上：左から青木、村杉、佐野、西澤各メン】



【写真上：左から樋口、柿沼各メン】

◆2024年4月第一例会卓話のおしらせ

例会日時:4月17日(水)18:30~20:30

場所:東陽町コミュニティーセンター

卓題:「夢二胡蝶トナル -昆虫採集への誘い」

★虫嫌いの方にも抵抗の少ない蝶を中心にお話していただきますので、多数ご参加ください。

講師:千葉県少年自然の家 所長 佐藤 健 様

★お弁当手配のため、ご出席の方は4/13までに青木までご連絡ください。(樋口 記)

◆24年度次期会長・部役員研修会参加して(西澤)

3月9日から10日に東山荘で開催された上記研修会は、ZOOM参加も許されて20名余の参加者があった。

定例の開会式の後、能登半島地震におけるYMCA支援の経緯報告が、熊本YMCA総主事の光永尚生氏からなされた。

輪島避難所、金澤Y、富山Yの3拠点を軸に支援活動を実施しているとのこと。

YMCAでは地震発生(1月1日)後、8日には街頭に立ち寄付金を集めたが、僅か数時間で89万円が集まった。日本人の善意を感じた。

現在、エリアセーフティとして、全国を3つに分けて、迅速対応が可能なガイドラインを作成中である。

最後に、2025年アジア大会を熊本で開催する予定であり参加願いたいと締めくくられた。

後は、大久保さんからワイズの法人化についての取り組み状況の説明があり、次いで、利根川恵子さんからアジア太平洋エリア・国際の現状の説明が続き、現在のワイズの課題を分かり易く話して頂いた。

途中、記念撮影で中座したが、最後の特別公演は、区理事の山田公平さんから2024年度理事方針の説明があった。

最初に自己紹介をされたが、米国留学から福祉を生涯の天職とされた経緯などが語られ大変感銘を受けた。

今年は、ワイズの方向付けを見極める年だとの目標の下に、ユース・エンパワメントを挙げて、CS、EMS、IBC、DBCなどの活動を通してユースを巻き込んだワイズの活性化が大切であると強調された。

夕方6時まで大変充実した研修会で、ZOOM参加の私たちまで会場の熱気に圧倒されるほどであったことを付け加えたい。(西澤 記)

◆東京サンライズクラブ

創立35周年記念例会出席報告(青木)

例会日時:3月23日(土)11:30~14:00

場所:京橋モルチェ

当日は残念ながら雨が降り、寒い日となりましたが、我々のクラブからは柿沼メンと青木が出席しました。

各部からも78人もの多くのワイズメンがお祝いに駆けつけ、サンライズクラブのチャーターメンバーでもあり重鎮でもいらした小山憲彦メンの追悼の映像が流れました。その映像を通じて、過去の出来事が蘇り、多くの思い出が心によみがえりました。短い時間でしたが、関東東部以外の方々ともお会いでき、有意義な時間を過ごすことができました。

各クラブでのメンバーの減少傾向についても話題に上りましたが、これからも頑張っていくことが重要であるとの共通の認識がありました。

最後に、当クラブの今後のご活躍を心より期待し、会を後にいたしました。

(青木 記)

◆2024年4月第2例会(役員会)

日時:2024年4月10日(水)15:00~16:30 Zoom

1. 4月例会打合せ
2. 神田川船の会催行準備関係(6月8日催行)
3. 「関東東部EMCを考える集い」報告(4月6日実施)
4. その他 (樋口 記)

◆今後の主なスケジュール(樋口)

- 1) 4月18日(木) 第33回チャリティーゴルフ大会
- 2) 5月 8日(水) 5月第二例会(Zoom)15:00~
- 3) 5月10日(金) 東陽町クリーンウォーク12:30~
- 4) 5月15日(水) 5月例会(東陽町)18:30~
- 5) 5月18日(土) 関東東部第3回評議会
- 6) 5月25日(土) 在京ワイズ会長会(山手セ)AM
- 7) 同 関東東部Ys/Y協議会19:00~
- 8) 6月 1日(土) 第27回東日本区大会(十勝)
- 9) 6月 8日(土) 第89回神田川船の会(浅草橋)
- 10) 6月12日(水) 6月第二例会(Zoom)15:00~
- 11) 6月19日(水) 6月例会(東陽町)18:30~
- 12) 7月10日(水) 7月第二例会(Zoom)15:00~
- 13) 7月17日(水) 7月キックオフ例会(東陽町)18:30 (樋口 記)



原田マハ著「リボルバー」
(幻冬舎、2021)

原田マハ最近の絵画小説である。今回は、ゴッホとゴーギャンの交流物語である。

印象派後の2人の天才画家を

研究対象としている高遠冴は、パリのオークション会社CDC社に就職した。ある日、サラなる人物が、赤錆びたリボルバーを持ち込み、ゴッホが自らを撃った拳銃であるので、オークションに出してほしいとの要請を受けた。

これが本物であれば、美術史が変わるかもしれない。まだ小規模なCDC社にとって、ジャンプのきっかけになるかもしれないと、社長のギロー、リーダーのフィリップが、その真偽の調査を始める。この本の肝は、アート史上最大のなぞとされるゴッホの死の真相である。

そこで、彼女は、ゴッホとゴーギャンの交友関係を徹底的に調べる。当該リボルバーが飾ってあったというレストランを見つけ出し、そこからゴーギャンの足跡を訪ねる。

当時ゴッホの絵は、時代を先取りしすぎていたために高い評価を受けていなかったが、ゴーギャンは、彼の才能に魅せられていた。そこで2人が共同生活を始めてみたが、ゴッホとゴーギャンは、互いの才能がことごとくぶつかり合い、夢の生活は短期間で終了したと言われている。

サラは、持ち込んだリボルバーがゴッホを殺害した本物であることを信じていた。そこで、かつて展覧会で展示した時のカタログを探し出す。しかし、冴たちの調査の結果、これが明らかに別物であることを知る。また、以前そのリボルバーを所有していた食堂の主人の証言と矛盾することも分かった。

そこで冴たちは、以下の仮説を立てた。リボルバーの持ち主がゴーギャンであった。サラはゴーギャンの子孫に当たる。したがって、ゴッホは、自殺したのではなく、ゴーギャンに誤って撃たれたという結論を導いた。サラが、その仮説から彼女の追憶を辿った。ラストでは、確かにそれは、ゴーギャンのリボルバーであったが、ゴッホの死は、他殺でも自殺でもなく、暴発による事故であったと結ぶ。作者原田マハは、著名画家を下敷きに美術小説をいくつか書いている。
(西澤 記)

1. 輪島市の要請を受けて、能登半島地震被災地支援として、輪島市町野町の避難所(町野小学校・東陽中学校)に、1月25日から3月末まで東京YMCA各部から合計31人のスタッフを派遣した。避難所の受付をはじめ、被災者の生活をサポートするための多様な業務に従事して高い評価を得た。4月以降は全国YMCAが協力して同避難所の運営支援を継続していく。

2. 2月28日、いじめのない世界をめざす「YMCAピンクシャツデー」が全国のYMCAで実施された。東京YMCAでも、各学校、保育園、児童館、学童クラブをはじめ各拠点で、子どもたちや教職員がいじめ反対をアピールするピンクのシャツを着用した他、いじめについて考える様々な取り組みを行い、その様子をHPで紹介した。



【写真上:江東幼稚園にて】



【写真上:にほんご学院にて】

3. 今後の主な行事予定

- 1) 「**早天祈祷会**」4月1日説教:古賀博牧師
(山手センター/オンライン)
- 2) 「**職員就業礼拝**」4月1日(オンライン)
説教:古賀博牧師(日本基督教団早稲田教会)
- 3) 「**ウクライナ支援報告会**」4月16日(オンライン)
- 4) 「**第33回チャリティーゴルフ大会**」4月18日
(PGM総成ゴルフクラブ)
- 5) 「**高石ともや バングラデシュ支援チャリティーコンサート**」4月29日(日本基督教団浅草教会)
- 6) 「**第21回会員大会**」5月25日(山手センター)
(クラブ担当主事:柳原 記)